

「脳性まひ等肢体不自由児者に係る療法士等研修事業」講義内容

1 脳性麻痺者の成人期の整形外科的諸問題

成人になるにしたがって生じる運動機能低下、および、股関節脱臼、四肢の変形拘縮、頸椎症性脊髄症、脊柱側弯症などいわゆる二次障害について解説します。これらを知ることは成人の治療に重要なだけでなく、小児に対して将来像を見据えて治療する上でも重要です。

2 障害児・者に対する社会福祉制度と支援体制

地域で障害児・者の看護、介護、リハビリテーションに関わるときに知っておくべき福祉制度や支援体制について学ぶ。障害福祉サービスの概要や障害者支援区分などの概略を理解する。

3 障害児・者に対する医療・看護ケア

在宅で暮らす医療的ケアが必要な障害児・者と関わるうえでの必要な基本的知識・リスク管理、看護とリハビリの連携について学ぶ

4 理学療法アプローチ

小児期から成人期の脳性麻痺児（者）・重症心身障害児（者）の理学療法について、身体の成長に伴い生じる変化や成人期に起こる問題等も含めて、概論的な内容を講義する。講義には呼吸理学療法に関する内容を含む。姿勢変換等の介助方法・ポジショニング、福祉器具を使用する際に注意する点等について、実際の事例を紹介しながら行う。

5 言語聴覚療法アプローチ

重症心身障害児・者におけるコミュニケーションの困難さや要因を学び、現在のコミュニケーションの取り方を把握し尊重すること、年齢にふさわしいかわり方の大切さ、特異な能力（個性）を把握しコミュニケーションに繋げていくなど、コミュニケーションにおける支援の考え方について学ぶ。

重症心身障害児・者における食事の困難さを学び、重症心身障害児・者によくみられる食べ方や飲み方を紹介する。誤嚥のリスクと対処方法など、食事の支援の考え方について学ぶ。

6 作業療法アプローチ

脳性麻痺を主とした肢体不自由児者に対する作業療法について基本的な評価・アセスメントと介入・支援について講義する。評価としては上肢・手指機能、視知覚などの機能的評価、ADLや遊び・余暇活動など生活行為等の発達や意義について整理する。また支援としては対象者個別の特性を踏まえた上で、目標とする課題や環境設定等について事例を挙げて考察する。更に、家で手軽に取り組める遊びや姿勢保持に役立つ工夫等の紹介、業者からの姿勢保持用具やICT機器の紹介をVTRにて上映する。